

マジックミリオンズセールプレビュー View from Down Under

ハイランド真理子

来年のスポンサーはBMW

もう今年も終わりに近づいてきてしまった。私事で申し訳ないが、今年は、年13回という記録破りの日本出張を重ねた。気がつけば、オーストラリアではまた1歳のセリのシーズンだ。当然ながら、1月のマジックミリオンズがその最初である。来年のセリ名簿を手にしたら、大きな変化が起きていた。何かと言うと、マジックミリオンズのセリの名前が「BMWマジックミリオンズセール」となっていたことだ。昨年までは、「コンラッドジュピターズ・マジックミリオンズセール」だった。つまり、スポンサーが変わったのである。マジックミリオンズというセリにスポンサーがついていることは、もう何年も書いているのだが、日本人の感覚ではあまりなじめないのだろうか、日本のセリには未だにスポンサーもつかないし、セリ名簿に他業種の広告が載ることもない。もったいないな、と思っている。その昔マジックミリオンズには、ホンダがスポンサーをしていた時代があった。ホンダ・マジックミリオンズセール。それが、来年はBMW。セリだけでなく、レースのスポンサーにもなる。セリ場にも、競馬場にもBMWの車が展示される。「別にお金をもらわなくても……」という意見もあるかもしれないが、私は、スポンサーは一般社会と競馬の世界を繋ぐパイプだと信じている。例えば、ホンダ・セレクトセールでも、トヨタ・セレクトセールでもいいのではないのかなど思ったりするのだが……。

余談になるが、JRAのレースにも、もっと積極的に幅広い業種のスポンサーをつけてもいい時代になったのではないだろうか。ピアジェ・ジャパンカップ、ANAスプリンターズステークス、なんてあったらいいだろうし、レースだけではなく、競馬場にもスポンサーからの広告塔や案内板があってもいいのではないだろうか。世界の競馬で行われていることが、未だに日



マジックミリオンズの会場風景

本の競馬で行われていない理由は一体何？
WHY?

いずれにしても、来年のマジックミリオンズは、BMWマジックミリオンズセールとなる。さて、このBMW社は、今年コーフィールドカップでもスポンサーになった。さらに、シドニーには、The BMWという社名そのもののG1レースもあり、BMW社と競馬との関係は年を追うごとに強くなっている。今年マジックミリオンズとアライアンスを組み、ゴールドコーストだけでなくアデレードとパースのマジックミリオンズセール&レースにも関わってくる。日本語で言うところのコラボである。広告として、またマーケティングとしては、馬を買う経済力のあるバイヤーや、馬を持つことのできるほど経済力のある馬主、また金回りのいい（全てがそうとは言いがたいけれど）パンター（馬券を買う人）たちが対象であり、更に、メディア露出も大きいので、決して安い支出ではないけれど、費用対効果があるという判断なのであろう。

馬インフルエンザの影響を受けるセール

来年のマジックミリオンズセールは、年が明けてすぐの1月6日から14日まで行われ、最初の4日がプレミアセールになる。

来年のセリ名簿には1236頭の馬が上場されている。2008年と比べると90頭の減少。これは、2007年の繁殖シーズンにクインズランド州とニューサウスウェールズ（以下NSW）州で大規模に発生した馬インフルエンザの影響であるという。インフルエンザ発症の期間、州境は閉鎖されてしまい、例えばNSW州のハンターバレーでは、他州からの繁殖を受け入れることができず、ハンターバレー内部でのみ行われるという異例

の事態になっていた。したがって、今回、上場馬の内約800頭は、NSW州の生産馬である。ファーストセッション（1-5セッション）には、マジックミリオンズの会長、ジェリー・ハーヴィー氏の所有するパラムルスタッドから70頭、クールモア牧場が53頭、ウィデン牧場41頭、ヤラマンパーク33頭、そしてアローフィールド牧場30頭など、ハンターバレーの大牧場から上場されている。

これまで、マジックミリオンズは、2歳馬のスプリントレースでは実績があった。しかし、若い馬が勝ちにくい2マイルレースのメルボルンカップでは、マジックミリオンズの出身馬は、なかなか勝つことができなかった。実際、セリ出身馬のメルボルンカップ優勝は、1992年のサブゼロだけであった。それが、今年は出身馬のショッキングが、4歳でメルボルンカップに勝ったのだ。マジックミリオンズ社の社長であるデヴィッド・チェスター氏は「ショッキングは、わずか、4万5千ドルだったのですよ」と、興奮して語る。そして「これまで、マジックミリオンズに来る人たちは、翌年のマジックミリオンズか、ゴールドスリッパーステークスを勝ちたいと思っている人たちが多かったのですが、これからは、メルボルンカップの優勝馬を見つけに来て下さる方も多くなるかも知れません」と語っている。

セリを左右する種牡馬成績

いつものことながら、リーディングサイアー・ランキングがセリに影響するのであるが、現在、つまり今年8月に始まったシーズンのリーディングサイアー1位には、メルボルンカップを勝ったショッキングの父であるストリートクライが入っている。2位は、昨年のランキング1位であるエンコスタデラゴ。3位以下に、産駒のヴェードが今年もコーフィールドカップを勝ち、相変わらずの活躍をみせているシーニック、そして、ニュージーランドで供用されているハイチャパラル、さらに、ロンロ、リダウツチョイス、テスタロッサ、モザンレディ、ショワジュール、コマズと続く。その中の、ストリートクライ、ロンロ、コマズは、ダ



マジックミリオンズの出身馬で、今年11月のメルボルンカップに優勝したショッキング

レーオーオーストラリアの所有馬。リーディングサイアー・ランキング10位に同じ牧場の所有馬が3頭も入っているというのは、画期的である。

さて、現在リーディングサイアーのストリートクライの産駒が、マジックミリオンズに？と思いきや、残念ながら2007/2008年のシーズンは、オーストラリアにシャトルされなかったため、来年のオーストラリアのイヤリングセールには、ストリートクライ産駒は上場されていない。言うまでもないが、ストリートクライ産駒は、オーストラリアだけでなくアメリカでも大活躍。特にブリーダーズカップクラシックのゼニヤッタの活躍で、人気が高騰していると聞く。ストリートクライが再びオーストラリアにシャトルされるか……、ダーレーに聞いてみたが、返事は現在のところは分からないということであった。

ダーレーのニュースをもう少し。先ごろダーレーオーストラリアは、オーストラリアの人気種牡馬、コマズを日本にシャトルさせることを決めている。今シーズン、コマズは獲得賞金額でランキング10位につけている人気スタリオン。ダーレーグループの責任者である、ジョン・ファーガソン氏は「現在、ダーレー日本の生産ビジネスは大変うまく行っている。モハメッド殿下も、それについて満足しており、更に日本のレーシングと生産に関わりたいという意思を持っておられる。コマズのようないい馬を日本に送り込むのはその強い気持ちの表れだ」というコメントが、12月8日の競馬関係のニュースで伝えられた。それによれば、コマズは日本では500万円の種付け料になるとのことだ。

注目の上場馬は

来年の上場馬で、スターは何と言ってもG I勝ち馬の母を持つ馬たちであろうか。本馬がデインヒル産駒であるアクダモールの初仔は、フサイチペガサスの牡馬を出す。ゴールデンシップパー優勝馬ハハの4番目の仔は、エンコスタデラゴの牝馬。血統からみても、いい繁殖になりそうだ。クインズランドオークスの優勝馬モンメキの4番目の仔でダーレーのエリュシブクオリティ産駒も上場されており、これらを含めて、今回のマジックミリオンズセールには、G I勝ち馬を母に持つ上場馬は全部で15頭いる。

種牡馬別に挙げると、セッション1から5までで、最も上場頭数の多いのはファストネットロック産駒。ファストネットロックは、今、クールモアが最も期待する種牡馬の1頭。ファストネットロック自身は3歳でライトニングステークス(1000m)とオークリープレート(1100m)を勝った超スプリンターであったが、現在、その産駒で、

ショッキングだけでなくゼニヤッタの父としても注目を集めるストリートクライ。残念ながら来年のセリには上場されない

今年のセール最高価格 200万ドルで落札された、エンコスタデラゴの牡駒 (母 Surrealist)



オーストラリアのG Iを勝ったアイリッシュユライツは1100mから1600mの距離で、また南アフリカでG IIを勝ったクーヴドボールは1400mから1600mまでの距離で勝っており、なかなか守備範囲も広いようだ。ファストネットロック産駒は現在96頭の出走馬のうち41頭が勝ちあがり、入着馬も24頭いるという超優良種牡馬である。馬体にもよるが、セリでもかなり人気を呼ぶのではないだろうか。モアザンレディは34頭。このモアザンレディの父サザンヘイローは、先ごろ死亡したばかりだが、オーストラリアではヘイロー系が極端に少なく、更に、シブリング、フィーランレディと2頭もゴールデンシップパー勝ち馬を出しており、更に、産駒の距離も短距離からダービー(クラシックディスタンス)馬まで多彩であり、人気はますます上がっている。

来年のマジックミリオンズセールの注目度No.1は、何と言ってもパティナックファームのコンサイナーデビューだろう。ネイサン・ティンクラーク氏は、ご存知のようにこれまで巨額のお金を出してクオリティの高い馬を購入してきたが、昨年は種馬事業にも乗り出し、いよいよ売る側に廻った。今回の上場馬には、香港の活躍馬スーパーブリッツの弟でエンコスタデラゴ産駒、G I馬サリウスの半妹でテストロッサ産駒、G I馬バーカダのめいでロンロ産駒など21頭が出ている。パティナックファームには、ハッソン、カジノプリンス、ビューティフルクラウン、そしてアグネスワールドのたった1頭のG I勝ち馬であるワンダフルワールドが繋養されている。そのラインアップに、最近、ロックオブジブラルタル産駒で重賞レース勝ち馬のムータジルが加わった。パティナックファームの種牡馬たちの人気は高く、今シーズン、ハッソンは108頭、カジノプリンスは139頭、ワンダフルワールドは122頭の種付けをしている。したがって、2011年には、パティナックファームの種牡馬の産駒が上場されることであろう。



売買だけではないマジックミリオンズセール

マジックミリオンズセールは、私がここ20年間ずっと書き続けているように、単なるセリではない。これは、セリの出身馬が高額賞金を獲得する機会を得る場であり、ファッションとイベントが満載の特別なアトラクションであり、世界的に有名なリゾート地でホリデーを楽しむことのできるグッドチャンスでもある。ビジネスとプレジャー(娯楽)のミックスである。更に、来年のマジックミリオンズレースは、なんと、全プログラムの賞金総額が460万ドルにもなる。BMWマジックミリオンズ2歳クラシックの賞金は200万ドル、コンラッドジュピターズ3歳トロフィーが100万ドル。残り160万ドルがその日一日のレースで提供されることになっている。これまでのマジックミリオンズ2歳クラシック優勝馬には、フィーランレディ、ミミルブロック、ブラッドベリーズラック、ダンスヒーロー、レジメンタルギャル、アサーティブラッドなどがおり、スニベッツ、ジェネラルナディウム、テストロッサなどは、種牡馬になった。面白い統計がある。マジックミリオンズの創設以来、これまでこのセリの出身馬のうち、67頭が総賞金100万ドル以上を稼いだ。その内20頭はG I勝ち馬で、その勝ち鞍数は、全部で27勝。その馬たちの平均購買価格はおよそ12万9千ドル。平均勝ち距離は1798mだという。

もうひとつ、マジックミリオンズを巡る話題を。韓国のテレビドラマが、マジックミリオンズを舞台に繰り広げられるのだと言う。内容はよく知らないが、例のメロドラマチックな韓流ドラマなのだろう。ヨン様が来るのかどうか、オハサンには気になる。ドラマは、調教師とオーナーのLOVE STORYらしい。ゴールドコーストの青い海、リゾート地、ファッション、馬、そしてLOVE。舞台は揃っているようだ。

筆者●プロフィール



Mariko Hyland ■ 団塊の世代。アナウンサー、コピーライターなどを経る。著書に「オーストラリアとニュージーランドの競馬ガイドブック」など。オーストラリア人の夫、2人の娘とシドニー在住。